

1学期末の終業式でもたくさんの表彰伝達をしましたが、2学期の始めにもたくさんの表彰をこの場で披露することになりました。皆さんの努力の成果をお伝えできることを嬉しく思います。

また、夏休み中、学校を訪れた方々から、南中の生徒たちの元気な挨拶で明るい気持ちになったというお話や職員室の場所がわからず、迷っていたら職員室の入り口まで案内してくれたこと等、感謝やお褒めの言葉をいただきました。南中生素晴らしいですね。

さて、本日は、野球において「二刀流」で活躍されている人について紹介したいと思います。といっても米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手の話ではありません。夏の甲子園で107年ぶりに優勝した神奈川県代表の慶応高校の森林監督についてです。

選手は野球と勉強の「二択」ではなく「両立」を追求し、自身は小学校教員との「二刀流」の日々を送る。日ごろから「野球は選手のもの」と自主練習を重視し、主体性を持って考えることを求める。

東京都渋谷区にある小学校で授業を終えると、横浜市にある高校へ移動し、野球部の指導にあたる。職場や保護者の理解を得ながら「二刀流」の日々を送る。2つの仕事をかけもちことは、時間的、体力的に楽ではないのは簡単に想像できるが、それでも森林監督は、「どちらも面白くて、とても魅力的な仕事なんです」と話す。

優勝を決め、マウンドに集まり喜ぶ選手たちの姿を、「これが日本一の景色なんだな。いい景色だな」とまぶしく見つめた。ただ、グラウンドから一步離れると「この思い出に浸る人生にはしないでくれと、部員全員に伝えたい」と語った。

「甲子園優勝は素晴らしいが、彼らの未来にはもっと楽しくて明るいこともある。そういうものを目指してほしい」。

(毎日新聞webニュース【常識を覆す慶応・森林貴彦監督】より)

ところで、皆さんも、夏休み中、四国総体や吹奏楽コンクール、弁論大会等において精一杯力を発揮し、一人一人が心に残る貴重な経験をしたことと思います。また、3年生は進路決定のため高校の体験学習に参加し、次の目標が明確に見えてきた人もいると思います。

今日から始まる2学期は、文化祭を始め行事も多く、皆さんの成長の可能性を広げるチャンスがあります。成果や結果はもちろん大切ですが、それ以上にそれぞれが集中して取り組む日々のプロセスを意識して、その先にある素晴らしい未来に繋がる歩みを大切に行きましょう。

「未知の世界に勇敢に挑戦することを楽しむ。」そういう南中生であって欲しいです。

※始業式に先立ち、夏季休業中に入賞した団体・個人に賞状の伝達式を行いました。

